



平成28年度大久保小学校6年生制作

「この絵には、手と大久保つつじと街があります。手は「大久保」、街は「世界」を表しています。大久保から、つつじがあふれて、世界へつなげるという意味をこめました。」

つつじのさと大久保 vol.2

発行日：平成29年3月

編集・発行：大久保地区協議会・まちの将来像分科会
〒169-0072 新宿区大久保2-12-7 TEL 03-3209-8651
新宿区大久保特別出張所

つつじのさと 大久保 vol.2



P2
つつじのさと
歴史マップ

P3
つつじと
鉄砲組百人隊

P4・5
大久保つつじの
うつりかわり

P6
子どもたちと
ともに目指す！
つつじのさと大久保

P7
大久保つつじを
守り広める活動

P11
大久保つつじを
みんなでお花見したい！

P10
大久保つつじ
あれこれ

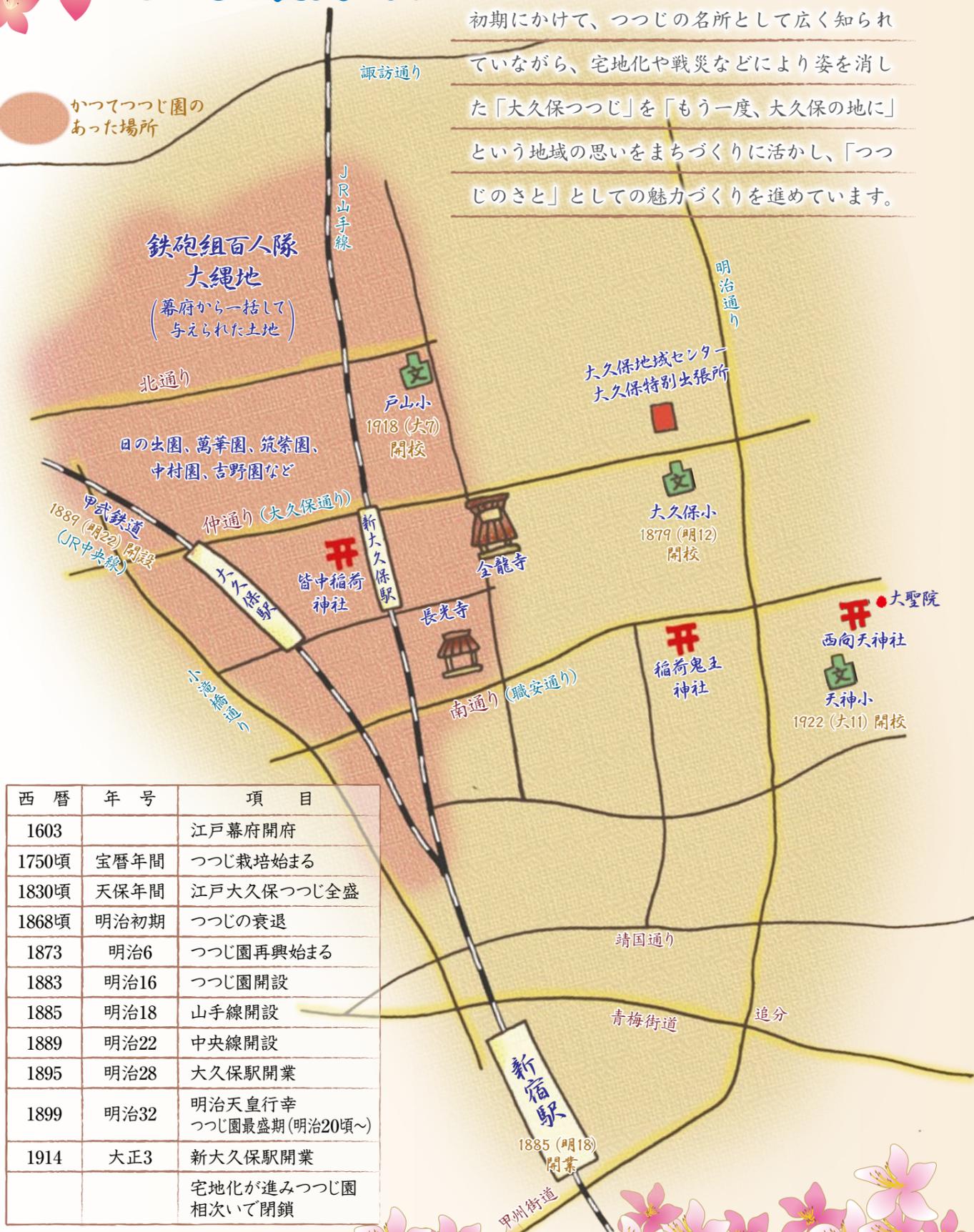
P8・9
大久保つつじ
お散歩マップ

大久保地区協議会

つつじのさと歴史マップ

かつてつつじ園のあった場所

大久保地区協議会では、江戸時代後期から昭和初期にかけて、つつじの名所として広く知られていながら、宅地化や戦災などにより姿を消した「大久保つつじ」を「もう一度、大久保の地に」という地域の思いをまちづくりに活かし、「つつじのさと」としての魅力づくりを進めています。



西暦	年号	項目
1603		江戸幕府開府
1750頃	宝暦年間	つつじ栽培始まる
1830頃	天保年間	江戸大久保つつじ全盛
1868頃	明治初期	つつじの衰退
1873	明治6	つつじ園再興始まる
1883	明治16	つつじ園開設
1885	明治18	山手線開設
1889	明治22	中央線開設
1895	明治28	大久保駅開業
1899	明治32	明治天皇行幸 つつじ園最盛期(明治20頃~)
1914	大正3	新大久保駅開業
		宅地化が進みつつじ園 相次いで閉鎖

つつじと鉄砲組百人隊

1603年、徳川家康は江戸に幕府を開き、江戸を城下町として栄えさせることを目的に大名屋敷や武家屋敷を造りました。それらの屋敷や寺、神社の間に町屋が広がり、町人の数も増えていきました。しかし城下町の外側である大久保地区はほとんどが農村で、開発されませんでした。同時に、今の新宿2丁目交差点あたりが江戸の警備上重要な場所であり、そこを警備する鉄砲組百人隊同心に一定の居住地がありませんでした。内藤清成は、徳川家康が鷹狩に中野坂上の宝仙寺に来たときにそのことを申し上げ、この大久保の地を定めて鉄砲組百人隊を住まわせました。これが百人町のいわれです。

はじめは陣屋形式の居住地でしたが、その後、敵から攻められたとき、敵が入りにくく、守りやすいようにするため、狭い間口で奥行き長い武家屋敷を造って定住することになりました。

屋敷地全域に東西三本の道路をつくり、各入口に木戸を設け守っていました。その真ん中の道路が現在の大久保通りで敵の侵入を防ぐため、道幅は三間幅さんげんはば（一間は約1.8m）と狭くしてありました。大久保通りが、明治通りから小滝橋通りまで真っ直ぐ一直線なのは鉄砲組同心の組屋敷の名残りです。鉄砲組与力と同心百人は、大久保通りの両側（現在の百人町1、2、3丁目）に住み、平時は江戸城大手三の門の警備や、将軍が上野の寛永寺や芝の増上寺に参詣するときの警備に当たっていました。その鉄砲組百人隊が育てたつつじの美しさは江戸中に知れ渡り見物客でにぎわいました。百人町、大久保地区を有名にしたのは、まさしくつつじでした。



大久保つつじのうつりかわり



つつじ
知識

つつじの育て方

鉢植え 日当たりのよい場所で十分に水を与えてください。乾燥のしすぎは開花時期を遅らせてしまう可能性があります。花が終わったら早めに摘み取っておくと木の勢いが弱るのを防ぎ、翌年もよく花が咲きます。

土植え 土植えすると株が増え、よく育ちます。つつじは浅根性で細根が多く地表近くで生育し土の中に根が深く伸びることはありません。植え替える場合は、乾燥、踏圧、肥料、除草剤などの被害を受けやすく注意しなければなりません。また、水はけの悪い場所に植えると根腐れしてしまいます。水はけがよく日当たりのよい場所になるべく浅く植えるようにします。

苗木にして増やす方法もあります

新芽が伸びる5~6月に、6~7cmのさし穂を作り、鹿沼土などにさします。

〈参考資料〉

- * 館林市史…特別編第1巻 館林とツツジ
- * 館林市つつじが岡公園ガイドホームページ
- * 新宿区の文化財史跡（西部編）…新宿歴史博物館
- * 新宿区教育百年史資料編…東京都新宿区教育委員会
- * 新宿文化絵図…新宿区
- * 三十年のあゆみ…新宿百人町明るい会商店街振興組合



江戸 大久保つつじって？

江戸時代に入り、園芸植物を育てることが流行しはじめ、大名屋敷や町人たちの住まいなどに造園材料として様々な植木が植えられ、人々は花を楽しむようになっていました。大久保に住み幕府の警護に当たっていた鉄砲組百人隊の同心たちは、戦がなく、手柄を上げる機会もなく、禄高があがる見込みもなかったため、彼らは家計の足しに副業として火薬の材料となる木炭、硫黄、石灰などを肥料として使うつつじの栽培を始めました（宝暦年間1751~63）。これが大久保つつじの起源です。したがって、大久保つつじという品種はなく、大久保で育てられたつつじということ。やがて大久保はつつじの名所として評判になり、江戸時代の行楽ガイドブック「遊歴雑記」、「江戸名所図会」、「江戸名所花暦」などでも紹介され、天保年間（1830~43）に全盛時代を迎えます。



江戸名所図会

明治 大久保つつじの再興

明治維新後、大久保つつじ園は土地の払い下げにより、一時期荒廃したといわれています。明治6年（1873）、東京府知事は、つつじ園を元の姿に戻すように提案し、中島（姓）・須藤直久・大竹国太郎・中村忠義の4名が発起人となり、共同経営でつつじの名所を再興することになりました。そして、約7,000坪の土地を10余名が共同で借り受けて、近在の家々から数百株の花樹を出させ、明治16年（1883）につつじ園を開設しました。

このつつじ園は、元つつじ園とも呼ばれました。また、明治20年（1887）には南町に共同のつつじ園が開設され、これを南町つつじ園（南つつじ園）と呼び、共同のつつじ園が2園開設されました。こうして、つつじが復活してくると共同のつつじ園以外に、日の出霧島を作り出した日の出園、八重霧島の巨木を有していた萬華園、そのほか筑紫園、中村園、吉野園などが次々に開園し、全部で7園、株数1万といわれ、この時期が再興を果たした大久保つつじの最盛期でした。特に、日の出、金蕊、手牡丹、紅黄蓮華、黒船、八重霧島、吾妻紋りなど奇種や珍種の品種はこのころ栽培されたといわれています。明治32年（1899）には、明治天皇がつつじの鑑賞に訪れ、「まがねしく 道のひらけてつつじ見に行くとおほし大久保の里」という歌を詠まれました。皆中稲荷神社境内入口には、その歌碑があります。



明治天皇の歌碑

※「まがねしく」は「鉄道線路が敷かれて」という意味



明治時代のつつじ園

つつじ園のその後

つつじの花の盛りには、顔に紅色が映るといわれたほどにぎわったつつじ園も時代の移り変わりと共に姿を変えていきました。

中央線の前身である甲武鉄道の敷地の支障となったことや、それまで土地を無償で借りていたつつじ園が、明治30年代になると地代を納めるようになり、やがてその経営が次第に困難となっていきました。大正4年（1915）に群馬県館林市の杉本八代氏が、大久保のつつじを買い取り、同市のつつじが岡公園に寄付しました。その他、日比谷公園や、箱根の三河屋旅館の庭園（蓬萊園）等に移されたものもあります。いずれの場所でも生育は見事で大人の背丈を越えるものも多数ある状態です。その後宅地化が進み、つつじ園も次々と閉園しましたが、人々のつつじを思う気持ちは残り、つつじは小学校の校章としてその名残りをとどめました。



住民の生活に根ざしているつつじ

戦後、地元商店街の植木好きの人たちが皆中稲荷神社の境内で植木の育成や品評会を行っているうちに、大久保の歴史に縁のあるつつじの保存会を作ろうということで「大久保つつじ保存会」が発足し活動を行うようになりました。昭和45年（1970）頃になると百人町明るい会商店街の若手で作る明るい会二世会が協賛し、各商店一軒一軒に鉢植えのつつじが飾られるようになりました。やがて、鉢植えも各商店保有の鉢数が多くなりすぎて、商店街につつじの鉢を配布することはなくなりました。新宿区は、昭和47年（1972）10月、たくましい緑の葉ときれいな花のつつじを「区の花」としました。

つつじでつなぐまちづくり



大久保駅壁画

4月に大久保地域に戻すこととなり、皆中稲荷神社（百人町1-11-16）と区立つつじの里児童遊園（百人町2-17）に植樹しました。皆中稲荷神社で行われる大久保つつじ祭では、つつじの苗木の展示即売会や、各種イベントが行われ、多くの来場者で賑わっています。

明治~大正



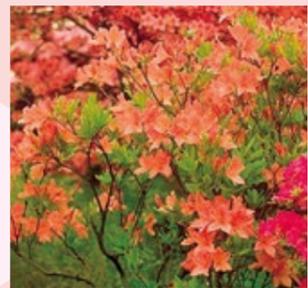
箱根・三河屋旅館

つつじの常緑の葉と、しっかりとした花の強さを教育の方針と考えて大久保地区の大久保、天神、戸山の三小学校ではつつじを校章としています。

つつじ
知識

つつじの漢字

中国で毒性のあるつつじを羊が誤って食べたところ、足ぶみしてもがき、うずくまってしまったと伝えられています。このようになることを躑躅（てきちよく）と言う漢字で表しています。従って、中国ではつつじの名に躑躅を当て、日本へもその中国で使われていた名称、「躑躅」が入って、「つつじ」と読むようになったと考えられています。



毒性のあるレンゲツツジ

昭和

つつじの名の起こり

いくつかの説がありますが、花びらの元を注意して見ると、筒状になっています。このことからつつじの花の形は「筒咲き」と呼ばれています。この筒咲きが変わって「つつじ」になったといわれています。



平成

江戸末期に栽培されていたと考えられる数種類の大久保つつじが、群馬県館林市にあるつつじが岡公園に残されていることがわかり、新宿区ではこれらのつつじから挿し木をして、その苗を育てていました。そしてようやく大きくなったこのつつじを平成20年（2008）



大久保つつじ祭での植樹



子どもたちとともに目指す! つつじのさと大久保

大久保地区協議会は、まちの歴史的資源である大久保つつじを広く地域の方々に知ってほしいと平成20年に、小冊子「つつじのさと大久保」を発行しました。

同じころ大久保小学校の児童が「大久保つつじを広める活動」に取り組んでいることを知り、以降毎年さまざまな共同事業を実施しています。近年は戸山小学校との交流も始まり、地域をあげて大久保つつじを広める活動を進めています。

平成21年度 大久保小学校創立130周年記念で 大久保つつじ植樹セレモニー

大久保小学校



小・中学生フォーラムで子どもたちが区長に「つつじを増やしてきれいなまちにしたい」とお願いしていた大久保つつじ6本が念願かなってつつじの原木のある館林市つつじが岡公園から寄贈されました。

平成23年度 第一回つつじのお花見会

大久保小学校



毎年つつじの花が咲く時期に、地域の皆さんに向けて6年生がつつじを守る宣言をします。「今年もみんなであつじを守り育てよう!」

平成25年度 戸山小学校に植樹しました

戸山小学校



つつじの苗木、本霧島30本を校庭に植樹。少しずつ活動が広がるのは心強いです。

平成26年度 平成27年度

戸山小学校 大久保小学校

戸山公園に植樹しました

区がさし芽をして育てたつつじの苗木あわせて30本を子どもたちと一緒に植樹しました。



平成22年度 つつ爺とつつ花の誕生です!

大久保小学校



みんなが親しめるつつじのマスコットキャラクターを作ろうと提案。原案を児童が創作し、イラストレーターの高岡洋介さんのアレンジで完成しました。

平成24年度 館林市つつじが岡公園へ 研修に行きました

大久保小学校



「大久保つつじの原木を自分たちの目で見たい」という願いが子どもたちの見学研修として実現しました。樹齢100年を越す大きな古木群に圧倒されつつ大久保への夢も広がりました。

平成26年度 大久保特別出張所長による 大久保つつじ講演会

大久保小学校 戸山小学校



つつじが明治時代に大久保から外国に輸出され、イースターの贈り物として人気を博していたなど、初めて知る歴史話に興味深々。

大久保小学校 大久保つつじを守り広める活動

平成21年度

- 「つつ爺」や「つつ花」などのオリジナルキャラクターを地元の絵本作家の方の協力を得て作成する。
- 学芸会を活用したオリジナル劇「つつじミュージカル」で地域の方や保護者に思いを伝える。



平成22年度

- つつじの成長日記や歴史などをまとめた「つつじホームページ」を大久保小学校ホームページ内に作る。
<http://www.shinjuku.ed.jp/es-okubo/index.html>
- オリジナル絵本「笑顔くれた大久保つつじ」を作成。後に近隣の小学校や図書館に置かれる。



平成23年度

- 「大久保つつじを地域文化財に!」という目標に向けてチラシを9500枚以上配るなどの活動に取り組むが目標は達成されず。しかし、この思いは今もなお代々の6年生に引き継がれている。
- 大久保つつじの歴代の成果物や活動記録を残していくために「つつじミュージアム」を大久保小学校校内に設置する。代々6年生の活動はミュージアムに行き、先輩たちの思いに触れることからスタートすることになった。



平成24年度

- 6本のつつじが近くに生えていた竹の根と絡み、弱っていた。そこで6年生は竹を伐採し、土を掘り起こし、鉄板を地中に入れるなど、すべての行程を自分達で考え、実行することで竹からつつじを守った。



平成25年度

- つつじを地域に増やそうとする「つつじのさし木」の活動を本格的に始める。
- 地域の「人と人の縁がつながること」を目指し、「縁台プロジェクト」に取り組む。間伐材を利用したベンチを作成し、つつじの花をデザインに取り入れる。



平成26年度

- 「お花見会」や「つつじのさし木」などの活動を引き継ぎ、毎年恒例の伝統的な活動となった。



平成27年度

- 大久保つつじをテーマにオリジナルの「つつじ俳句」や「つつじソング」と「つつじ放送」を作成する。
- これまでの活動や大久保つつじに関する歴史、種類などの情報をテーマに「大久保つつじカルタ」を作成する。



平成28年度

- 猛暑の影響で育ててきた多くのつつじのさし木が枯れてしまう。今後二度とこうしたことを起こさないために日光・病気・虫、などへの対策方法やつつじの育成方法についてまとめた「つつじノート」を作成する。
- 本冊子背表紙につつじへの思いを込め、地域や校内で“絵”を活用したメッセージを発信する。



大久保つつじお散歩マップ

江戸時代（1830～40年）に多くの人を訪れた、大久保つつじの里。
 明治時代に再興したつつじ園には、明治天皇も訪れました（1899年）。
 そんな大久保の地に、いま再び、大久保つつじを増やしています。
 見頃は4月中旬から5月下旬。
 ぜひ、つつじ巡りのお散歩をお楽しみください。 各スポットの()内は、植樹年

4 戸山公園 (平成26・27年)
 戸山小、大久保小の児童が心を込めて植樹しました。ひだまりの丘で真っ赤になって待ってるよ!



3 百人町ふれあい公園 (平成20年)

2 つつじの里児童遊園 (平成20年)

「大久保つつじ里帰り」イベントで館林市で育ったつつじを植樹。ついに大久保の地につつじが帰ってきたよ!!

お散歩しよう



1 皆中稲荷神社
 まがねしく道のひらけてつつじ見に行く人おほし大久保の里



p.4参照

きれいだね



5 大久保北公園 (平成21年)
 館林市から提供され植樹。つつじを通しての繋がりが強くなっているんだね♪

6 大久保地域センター(平成24年)
 3階のベランダに住んでいるよ。こっそりのそいでみてね☆



7 大久保小学校 (平成21年)
 校門の外からお花見できるよ。



8 小泉八雲記念公園 (平成23年)
 いつもきれいなお花たちに囲まれてすくすく育ってる♪



9 西武線線路脇 (平成24年)
 黄色い電車と赤いつつじが青い空によく似合ってるね!!



つつじはどこにあるのかな




大久保つつじあれこれ

明治の最盛期、大久保のつつじで最も多く植えられていた種類は本霧島ほんぎりしまで、50種内外が栽培されていました。特に、重要視されている種類は日の出霧島ひのでぎりしまでした。日の出園主山本道綱のころに同園栽培のさつきの間に発見されました。また、共同つつじ園には200年を経過した花の宴はなのうたげ（白色、薄紅色、紅色の3色に咲き分ける）の元木がありました。萬華園には大久保唯一といわれた250年以上の古木と伝えられる八重霧島の巨木が存在していました。

現在、館林市つつじが岡公園には、江戸時代の天保年間（1830～43）に、江戸大久保で作られていた本霧島、八重霧島、桔梗咲き霧島ききょうざきぎりしま、紅霧島、白霧島、日の出霧島など有名なキリシマツツジの品種が、数多く古木で保存されています。



江戸古木と呼ばれるつつじの品種（館林市つつじが岡公園ガイドホームページより）



キリシマツツジ系
本霧島（ほんぎりしま）

つつじが岡を代表するツツジです。花は鮮紅色の一重咲きです。花期には花が枝を覆い、見事な景観を呈します。



キリシマツツジ系
八重霧島（やえぎりしま）

本霧島の二重咲きになったもので、花は鮮紅色の二重咲きです。本霧島と同じく有名な古品種です。



キリシマツツジ系
桔梗咲き霧島（ききょうざきぎりしま）

花は鮮紅色で、桔梗咲き（花筒が短く、上部が開き、キキョウの花の咲き方をする）の美しいツツジです。



キリシマツツジ系
紅霧島（べにぎりしま）

花の形は本霧島に似ていますが、花の色はわずかに紫色を帯びた紅色一重咲きです。



キリシマツツジ系
紅の司（べにのつかさ）

花は紅霧島に似て、淡紅色に紫を帯びた二重咲きの美しいツツジです。



キリシマツツジ系
白霧島（しろぎりしま）

花は白色一重咲きです。他のキリシマツツジに比べて、葉が丸くて大きいのが特徴です。



キリシマツツジ系
日の出霧島（ひのでぎりしま）

花は紅に紫を含んだつやのある色で一重咲きです。葉にもつやがあります。有名な古品種です。



キリシマツツジ系
東錦（あずまにしき）

花は淡紅色の地に絞りが入ります。紅色だけの花も出てにぎやかな花柄となります。



リュウキュウツツジ系
白琉球（しろりゅうきゅう）

花は純白で径4～5cmになります。おしべは10本。がくはよく粘ります。古い品種として知られています。



リュウキュウツツジ系
峰の松風（みねのまつかぜ）

花は白地にわずかな淡紫色の絞りがまじります。淡紫色だけの花も現われます。大輪花です。

大久保つつじをみんなでお花見したい!!

平成17年に活動を開始した大久保地区協議会。

私たちは、翌18年には大久保の【まちづくりの目標】マスタープランを策定し、『江戸時代後期から昭和初期にかけて、つつじの名所として広く知られていながら、宅地化や震災などにより姿を消した「大久保つつじ」を「もう一度、大久保の地に」という地域の思いをまちづくりに活かし、「つつじのさと」としての魅力づくりを進めていく』という大きな目標を掲げました。

先に紹介した近隣小学校との交流をはじめ、大久保地区の公園や小学校、西武線線路脇などに大久保つつじの苗木を植樹する地道な活動を続けています。また、五月まつり、大久保まつり・百人町まつり等の地域のイベントでは、大久保つつじの歴史や文化についての啓発活動をしています。

そのほか、小金井市浴恩館公園では明治時代に大久保から植樹され大きく育った大久保つつじを見学し、大久保ゆかりの作家下村湖人の足跡に触れました。大久保つつじのルーツである「キリシマツツジ」を資源としたまちづくりを考える「つつじサミット2016 in 館林」に参加し、知識を深めてきました。

このような活動を通して、つつじへの関心が少しずつ地域に広がっていることを実感することができ、夢を膨らませています。



大久保つつじをみんなでお花見したい!! ……それが私たち地区協議会の夢です。

この大久保の地に、フランスの画家アンリ・マティスの赤と思うような本霧島と八重霧島のつつじのさとが戻ってくる。なんてすごいことでしょう!

始めは、「つつじ?」と思っていた私たちですが、大久保つつじの歴史を知り、戸山公園等に小学生達が植えてくれた大久保つつじが今年も咲いた姿を見たことで、夢が少しずつ現実に近づいている気がします。

何年先になるか分かりませんが、いま植樹した大久保つつじたちが大きな木になり、見事な花を咲かせたつつじの周りでお花見をしましょう。遠い昔の大久保では、こんな姿があちこちで見られ、多くの人達が楽しんでいたんですよ。

復活したつつじのさとでは、きっと美味しい「大久保つつじまんじゅう」を頬張りながら笑顔で集まる人々がいる、そんなまちの将来が想像できます。